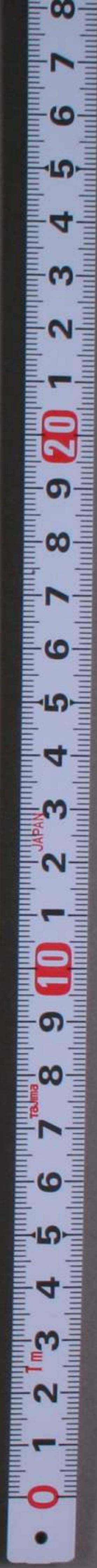


ホ 2
1213
1

和装本



門 利 2
冊 1213
巻 1-3



詞のかよひ路序

世ふはるかにあはれむ人のもろはそふわさ。ちあま
人の心を樂しまめきほそちあむあむある屋
なれや。それの中ふ歌よむまきちあむ。物より
こころまきわてそあはれき。ちあまとあはし
し。うらはしとあはし。あはれをのくしとあはし
あはし。それ言葉のよむしとあはし。人のまき

○ ころいしちあ

めて。おむのしやとと後しやとらむよ。おの
こゝろちかくさして。樂しきおもむきをたこさぬり。
かくつゝあち古事記日本紀ふるえて。神世上古
此哥のもやうつむひなれや。今此世とてを
ちらよこむちるこりちあるる。そとく

藤原奈良の法代を授て。寛平延喜のころを
ひよき。大やけわさし。いよくちありふのみした

もてあそひくさとおりて。花ね葉も虫のゆる音
未おけ。月雪霞のをそふしふもよあされ。高き
みしうたみやむねかこれくさほひと形むちあり
もてゆたて。事ひろくあはまらふ。形ふられの
題をまうけた。おのの身ふあつうらぬ事ゆも。
そのをそふしふおきねたこやをを。意はまれ
旅ふまれ。海川野山あなやころふよそく。こほ

もはこしおあるを引いて。世ふひひあは
さぬ免つらしねんをやははけり。あるも
志難ん高きおけあらしおあしやあふや。其
あひつ。あひえあひのほともよみゆき力
のききも。あひくを見えあふれり。そのよね哥と
よれ哥と見えあふや。同一學女友あらしをさら
ぬ。又さらぬよるしおても。こそおあしあや

やそえら。或は遠たさあひふもつてあへ
て。もてあやめり。思ひほこるをもあられや。
あそあよく遊あしあ難しやと。あれあむ
やあて。上古中昔の人の。ん詞の免てあな。神
も人もあはうとわしけむあめしおほえと。
言靈ちはあ道あちあしあをあうりける。
今もあしを心を種の道あな。いあて世よあ

多しき世に思ひをあらして。よき世
のへき世も。於ほろけあはぬ志をこぼさぬ。
一首あてもよくとみえしむも。かへりし
その樂しさを後めやも。まゝ家集おまれ
何ふまれ摺巻おろはして。世ふひろくあはれむ
後も。末の世久しく傳へて。ふ代又ちあはれむ
詞の玉を思ひをあらして。さうさへあはれむをき。

大あひの世あはれぬ人の。哥巻よ教へられる
あめしとまらぬらん。傍本朝臣山部宿禰も日本
記やとよその名をさしける人とならぬも。
美葉集おるえり。あはれみした。此二人も神を
も何あはれむのさる人なれむ。あはれむも
ふやまらさぬなり。喜撰法師檜垣姫あはれ。その歌
ふより世ふあはれむ。あはれぬ人なくこそ。かくあはれ

はしめよ。此道は与死るやそのかきりをおこして
多るなり。今の世の人よむる一首やいふやうも。
いさゝかも古法ふ多るひあふそめあも昔は例
ふよ解さうむも。いふあひなくくちをうたわさ
たふあり。詞は玉緒 詞の八衢をうひまぬひの
ほやふ。いふまてとくまのいふよむあきらをささ
まわしくむむ。そふ何る人たりくくちをたあふ

学は道さありあて。そこかこよむきそひ何らは
何れらの書やも。やむくふめつらあ形る事おあれ
や。もやく鈴屋翁の著しおあれあつた。まめやかよ
教へさとして。さへて物学ふ人のあめふその功よ
あくこそおあゆれ。それおつき後鈴屋翁の八衢
めあふんこそまめやあなる教あき。わあやもあつ
れちあくを形ちあつた書あつといへた。そふ此何ら

てせる。詞の通路も名家の教りちるく。まめくし
書あり。此道も深くつら。くはく。何きくふはれ
ちあらうて。かくもえさとけましく形む。

文政十一年戊子秋

本居大平

詞通路上卷

本居春庭著

よめり清國のさ紫れいともあやしく久きくたかき
しあはしそ又さほひさかちかおのつらあはしあは
いさひさかたさあはしあはしあはしあはしあはし
小なもさかきもものさあはしあはしあはしあはし
いさひさかたさあはしあはしあはしあはしあはし
そあはしあはしあはしあはしあはしあはしあはし
あはしあはしあはしあはしあはしあはしあはし
あはしあはしあはしあはしあはしあはしあはし
あはしあはしあはしあはしあはしあはしあはし

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a continuous passage of prose. The characters are highly stylized and connected, characteristic of a cursive hand. The paper shows signs of age, including some staining and discoloration.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a continuous passage of prose. The characters are highly stylized and connected, characteristic of a cursive hand. The paper shows signs of age, including some staining and discoloration.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with a treble clef and various notes and rests.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with a treble clef and various notes and rests.

詞の自他の辨

〇うゝひら上

〇五

		四カ	四カ	四カ		
		あうぞく	う	あうぞく		あうぞく
四カ	四カ	下カ	四カ	四カ	下ア	
あうぞく	ふせぐ	あうぞく	う	あうぞく	う	あうぞく
下サ	下サ	下サ			下サ	
あうぞく	あうぞく	あうぞく			あうぞく	あうぞく
	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	
	あうぞく	あうぞく		あうぞく	あうぞく	あうぞく
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	
あうぞく	あうぞく	あうぞく		あうぞく	あうぞく	あうぞく

名目よりしるすうあひしるのあうぞく
 のあうぞくは加行一線のあうぞく
 加行中二線のあうぞくは加行下二線のあうぞく
 とあうぞくは加行変格のあうぞくは加行下二線のあうぞく
 とあうぞくは加行変格のあうぞくは加行下二線のあうぞく
 とあうぞくは加行変格のあうぞくは加行下二線のあうぞく
 とあうぞくは加行変格のあうぞくは加行下二線のあうぞく

牙一版 牙二版を四種のくまき入よりりてさるるすなり
 牙三版をあふく佐行下二版のくまきなれといふなり
 もをかれくまきとすなり 牙四版を佐行下二版の活
 かきけり 牙五版を佐行下二版の活よりさるるす外の
 くまきなり

○うらひち上

〇八

牙一版	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ
	くまき	くまき	くまき	くまき
牙二版	下ワ	四ラ	下ラ	四ラ
	くまき	くまき	くまき	くまき
牙三版				
牙四版	下井	下井	下井	下井
	くまき	くまき	くまき	くまき
牙五版	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ
	くまき	くまき	くまき	くまき
牙六版	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ
	くまき	くまき	くまき	くまき

中ラ	中ラ	中ラ						下ヤ	下ヤ
申	ふ	あ						ん	き
四井	四井	四井	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	一	四カ
申	ふ	あ	くまき	くまき	くまき	くまき	くまき	ん	き
			四ハ	四井	下カ	四井	下カ	下井	下井
			くまき	くまき	くまき	くまき	くまき	ん	き
			下井	下井					下井
			くまき	くまき					くまき
								下ラ	下ラ
								ん	き
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	下ラ
申	ふ	あ		くまき	くまき		くまき	ん	き

ちよ奉... 句の... 身一肢と身二肢と... 身三肢
と身四肢と... 且して... 行下二肢は...
他の... 他は... 舟は... 舟一肢と舟六肢も...
舟二肢は... 舟三肢は... 舟四肢は...
舟五肢は... 舟六肢は... 舟七肢は...
舟八肢は... 舟九肢は... 舟十肢は...
舟十一肢は... 舟十二肢は... 舟十三肢は...
舟十四肢は... 舟十五肢は... 舟十六肢は...
舟十七肢は... 舟十八肢は... 舟十九肢は...
舟二十肢は... 舟二十一肢は... 舟二十二肢は...
舟二十三肢は... 舟二十四肢は... 舟二十五肢は...

舟二十六肢は... 舟二十七肢は... 舟二十八肢は...
舟二十九肢は... 舟三十肢は... 舟三十一肢は...
舟三十二肢は... 舟三十三肢は... 舟三十四肢は...
舟三十五肢は... 舟三十六肢は... 舟三十七肢は...
舟三十八肢は... 舟三十九肢は... 舟四十肢は...
舟四十一肢は... 舟四十二肢は... 舟四十三肢は...
舟四十四肢は... 舟四十五肢は... 舟四十六肢は...
舟四十七肢は... 舟四十八肢は... 舟四十九肢は...
舟五十肢は... 舟五十一肢は... 舟五十二肢は...
舟五十三肢は... 舟五十四肢は... 舟五十五肢は...
舟五十六肢は... 舟五十七肢は... 舟五十八肢は...
舟五十九肢は... 舟六十肢は... 舟六十一肢は...
舟六十二肢は... 舟六十三肢は... 舟六十四肢は...
舟六十五肢は... 舟六十六肢は... 舟六十七肢は...
舟六十八肢は... 舟六十九肢は... 舟七十肢は...
舟七十一肢は... 舟七十二肢は... 舟七十三肢は...
舟七十四肢は... 舟七十五肢は... 舟七十六肢は...
舟七十七肢は... 舟七十八肢は... 舟七十九肢は...
舟八十肢は... 舟八十一肢は... 舟八十二肢は...
舟八十三肢は... 舟八十四肢は... 舟八十五肢は...
舟八十六肢は... 舟八十七肢は... 舟八十八肢は...
舟八十九肢は... 舟九十肢は... 舟九十一肢は...
舟九十二肢は... 舟九十三肢は... 舟九十四肢は...
舟九十五肢は... 舟九十六肢は... 舟九十七肢は...
舟九十八肢は... 舟九十九肢は... 舟百肢は...

あつらぬとてなまじりよにあつらぬといふにまじりたるものなまじりよ
行よとてなまじりよは加行よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
四行よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
てなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
身よのまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
ろとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
まじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
てなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
そとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
とてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ

つなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
てなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
派なまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
行の派なまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
なまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
てなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
のま身よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
る身よ一のま身よとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ
つなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよとてなまじりよ

○同行して自他のくまゝ例

加行四股活詞

同下二股活詞

あうそく

あうそく

なひらく

なひらく

はく

はく

の

の

や

や

右よなるもあのみつゝはるゝりや下なるもあのみつゝはるゝりや

加行下二股活詞

同四股活詞

く

く

と

と

ぬ

ぬ

さ

さ

や

や

是よりなるもあのみつゝはるゝりや下二股活詞のまゝのあのみつゝはるゝりや

先行四股活詞

同下二股活詞

ふ

ふ

右よなるもあのみつゝはるゝりや下なるもあのみつゝはるゝりや

羅行四股活句

下二股活句

あなうら。

あなうら。

いの。

いの。

そま。

そま。

ちま。

ちま。

げら。

げら。

右上なるおと抱すもさしお下なるを他へ移せしむと
おのつゝ後せらるゝもさしお下なるは下二股の活を
らもしれもさしむたさしお下なるは活をさしむしつゝさしむら
是より佐行と羅行の活句よりして自他のさしむる句とあり

さしむるはさしむるよりさしむるはかく加行の活とさしむるは佐行羅行
よりして活けらるゝもさしむるの身一れ言身五の言より佐行
羅行よりして活く事なり外の行よりしては是よりさしむる
てさしむるもさしむる句のたのむるはさしむるはさしむる
の身一れ言身五の言より佐行羅行よりしてさしむる
○加行より佐行よりして自他のさしむる例

加行四股活

佐行四股活

うこく。

うこく。

あし。

あし。

か。

か。

なひく。

く。

なひく。

く。

右よなるまおのつゝ物さりつゝこゝへ下なる他を統

加行四段活

佐行下二段活

おく。

おく。

かく。

かく。

さく。

さく。

く。

く。

あせ。

あせ。

右よなるまおのつゝ物さりつゝこゝへ下なる他を統

加行中二段活

佐行四段活

おく。

おく。

さく。

さく。

く。

く。

右よなるまおのつゝ物さりつゝこゝへ下なる他を統

加行下二段活

佐行四段活

あく。

あく。

ふ〜。

ふ〜。

右よか〜まおの〜〜〜
りか〜〜〜

○加行より羅行より〜して自他の〜例

加行四段活

羅行四段活

つ〜。

つ〜。

め〜。

め〜。

あ〜。

あ〜。

い〜。

い〜。

右よか〜〜〜

いふ〜〜〜

加行四段活

羅行下二段活

あさむ〜。

あさむ〜。

いつ〜。

いつ〜。

〜。

〜。

〜。

〜。

〜。

〜。

右よか〜〜〜
せ〜〜〜

加行下二段活

羅行四段活

多行下二辰活

あつ。

ま。

羅行四辰活

あ。

ま。

右よなるはめをたすまじりて下なるまのつゝは
りあさるるちり

○奈行より羅行よりつて自他のまのつゝ例

奈行下二辰活

うま。

は。

羅行四辰活

う。

は。

右よなるはめをたすまじりて下なるまのつゝは

ことしちり

○波行より佐行よりつて自他のまのつゝ例

波行四辰活

あ。

ま。

か。

ま。

ま。

佐行四辰活

あ。

ま。

か。

ま。

ま。

右よなるはめをたすまじりて下なるまのつゝは
は

波行四股活

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

なふ。

佐行下二股活

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

なふ。

右よきまのこつこつはまきまきしつて下なるはまきまきしつて

波行中二股活

あふ。

佐行四股活

あふ。

かろふ。

むろふ。

あふ。

あふ。

右よきまのこつこつはまきまきしつて下なるはまきまきしつて

○波行より羅行よりつて自他のまきまきしつて例

波行四股活

まろふ。

さろふ。

やろふ。

羅行下二股活

まろふ。

さろふ。

やろふ。

麻行四股活

よむ。

のむ。

しむ。

をむ。

佐行下二股活

よむ。

のむ。

しむ。

をむ。

右よかろをさうつろひてまゝにさうつろひて下なるを他二股とす

麻行中二股活

あむ。

佐行四股活

あむ。

右よかろをさうつろひてまゝにさうつろひて下なるを他二股とす

まゝにさうつろひて

麻行下二股活

まむ。

佐行四股活

まむ。

右よかろをさうつろひてまゝにさうつろひて下なるを他二股とす

○麻行より羅行よりして自他のことゝ例

麻行四股活

たむ。

羅行四股活

たむ。

右よかろをさうつろひてまゝにさうつろひて下なるを他二股とす

麻行四段活

うろむ。

かこむ。

うろむ。

わろむ。

ろろむ。

右よみかたを他と読まざるをうろむ下なる他と読まざるを
ろろむとせしむるなり

麻行下二段活

あろむ。

羅行下二段活

うろむ。

わろむ。

ろろむ。

ろろむ。

ろろむ。

羅行四段活

あろむ。

あろむ。

ろろむ。

ろろむ。

ろろむ。

あろむ。

ろろむ。

ろろむ。

ろろむ。

石上なるを他と読まざるをうろむ下なる他と読まざるを
ろろむとせしむるなり

○也行より佐行よりうつて自他のまゝ一例

也行下二段活

あろむ。

いろむ。

佐行四段活

あろむ。

いろむ。

右上から左へつゝ地をなすりつて下なる地を他へ移す

羅行中二股活

佐行四股活

あ。あ。

あ。あ。

あ。あ。

あ。あ。

あ。あ。

あ。あ。

右上から左へつゝ地をなすりつて下なる地を他へ移す

羅行下二股活

佐行四股活

あ。あ。

あ。あ。

か。か。

か。か。

か。か。

か。か。

か。か。

か。か。

か。か。

か。か。

右上から左へつゝ地をなすりつて下なる地を他へ移す

○和行より羅行よりつて自他のよりつて例

和行下二股活

羅行四股活

あ。あ。

あ。あ。

右上から左へつゝ地をなすりつて下なる地を他へ移す

りつてゐるなり

○佐行と羅行をうろつ佐行よりうろつたものもあつた。羅行よりうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。

佐行四股活

かき。きり。のり。や。り。

羅行四股活

かき。きり。のり。や。り。

右となつたものをうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。

佐行四股活

あき。きり。のり。や。り。

羅行下二股活

あき。きり。のり。や。り。

右となつたものをうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。佐行と羅行とをうろつたものもあつた。

佐行下二股活

のき。

うき。

羅行四股活

のき。

うき。

右とならば他は極きことし右下なるもことし極きことし
とりよこはちうせの事らよこことあること
右のこつれ活の如く中二股の活のま行の身二れ書きちひみ
いりぬまう下二股の活のま行の身四の言えけせてねへめえれ
きよさうのそひて佐行よりうら文字のそひて羅行より
つる活けの事あり一股の活のま行の身二れ書きちひみ
よ下二股の活のま行の身二れ書きちひみを例と奉くこ以上のこつれ活

合せてまいりなう。○中二股の活の身二れ書き下二股
の活れ身四の言えけせてねへめえれ
そひりなう

○中二股の活のま行の身二れ書きちひみを例と奉くこ以上のこつれ活

加行

か。

か。

多行

た。

た。

波行

な。

な。

又今世人のそ小嵐風なふ ふまかひく ふまぢる 吹きて
なごよあゝと自他混雜してとれぬま申急もふくも嵐風
ちやのちりわくそつらつら 旋まきまぢる ちぢる ちぢる ちぢる
とはまぢるまぢるなれおのつらつら 旋まきまぢる ちぢる ちぢる
たふひなふあゝ

又まぢるなふまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
うらうらまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
たふひなふあゝまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
ゆなまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
そつらつらまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる

なりゆれおのつらつら 旋まきまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる

まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる
まぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢるまぢる

